様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２７ 日現在

機関番号：３４４１６
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ１２９４７

研究課題名（和文）古代寺院荘厳具の復元的研究～川原寺裏山遺跡出土金属製品を中心として～

研究課題名（英文）Restoration research of ancient temple decorative instruments-mainly on metal products excavated from Kawaharaderaurayama Site

研究代表者
米田　文孝（YONEDA, FUMITAKA）

関西大学・文学部・教授

研究者番号：００２９８８３７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：　4か年間に及んで実施した本研究課題の成果は，①埋納坑から出土した一括遺物の全量について，悉皆的にその種類・形態・材質別に分類し，あわせて保管機関などに関する情報も含めた一覧表の作成。②分別した遺物ごとに全点の写真撮影の実施。この可視化作業により作成した画像データは，埋納坑出土遺物の全体像の把握を容易にし，今後の調査研究や展示公開に関する利便性の向上に寄与。③獲得した調査研究成果は2019年度，一覧表や画像データを添付した調査報告書として刊行・公開する。
　本研究成果は川原寺の実態把握に資するのみならず，考古学や古代史学，美術史学などによる，飛鳥時代研究を促進する基礎資料となることが期待できる。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究の学術的意義は，1974年に発掘された川原寺裏山遺跡出土一括遺物について，その種類や数量，資料の保管機関などの一覧表を作成し，全貌を明らかにしたことである。先行研究では埋納遺構の特徴・意義の解明を目的としたが，これを発展的に継承した本研究では金銅製荘厳具の形態的な分類と数量の確認，機能･用途などの問題に焦点化して実施した。
　また，社会的意義についてみると，従来はその様相を実証的に把握することが困難であった飛鳥時代の古代寺院堂内荘厳について，その一端を明らかにすることができた。これにより，当該資料を博物館の展示資料として活用する方策や，義務教育支援教材として開発することも可能になった。

研究成果の概要（英文）：　The results of this research project carried out over four years are: 1) All types of collective artifacts excavated from the pit are totally classified according to their type, form and material, and information on storage facilities etc. are also included. Create a list. 2) Implementation of photography of all points for each of the separated artifacts. The image data created by this visualization work makes it easy to grasp the whole image of the buried excavated remains and contributes to the improvement of convenience for future research and exhibition. 3) The research results obtained will be published and published as a research report attached with a list and image data in 2019.
　The results of this research can be expected not only to help understand the actual condition of Kawahara Temple, but also to become a basic material to promote research on the Asuka Era through archeology, ancient history, and art history.

研究分野：日本考古学　博物館学

キーワード：川原寺裏山遺跡　川原（弘福）寺　三尊セン仏　塑像　金銅製荘厳具　三鈷杵　古密教

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

(1)本研究課題は，1974 年度に奈良県明日香村所在の川原寺背後（西北方向）に立地する川原寺裏山遺跡から一括出土した，資料群の整理･分類作業や埋納坑の性格を把握することを目的とした先行研究の推進過程において，新たに抽出された金属（金銅）製品の調査研究を主目的としている。

(2)飛鳥時代の古代寺院の堂内荘厳具と推定できる，川原寺裏山遺跡から一括出土した金銅製品の内容を具体的に把握するため，本研究では点数確認と形態分類，機能･用途などに関する問題に焦点を絞り，埋納坑の性格の把握をも含めた総合的な調査研究を推進した。

２．研究の目的

(1)本研究は，川原寺裏山遺跡出土一括遺物の整理･分析作業の過程で獲得された新たな問題意識を出発点にしている。先行研究では塼仏や塑像，金属製品，屋瓦などが大量に一括出土した，埋納遺構の特徴･意義の解明を主目的とした。本研究では，金銅製荘厳具片について，出土数量の確認と形態的な分類，機能･用途などに関する問題に焦点を絞り，先行研究の成果とも総合して，埋納遺構とその出土遺物の総合的な調査研究を推進した。

川原寺裏山遺跡埋納坑遺物出土状況（1974 年）

(2)これらを通じて，謎の大寺とも称される古代寺院･川原寺の仏堂内外を飾った荘厳具を実証的に復元し，実態が不明瞭な古代寺院の堂内荘厳とその性格を学際的に究明することを企図した。あわせて，当該資料を博物館の展示資料として公開･活用する方策や，義務教育支援教材として開発･展開することも視野にして調査研究を進めた。さらに，明治維新に匹敵する文明開化を告げた時期と評価される，飛鳥時代の国際性（国際化）の一端を実証的に解明する，将来的な調査研究課題に発展させる出発点とすることも目的とした。

３．研究の方法

所期に設定した研究目的を達成するため，本調査研究では以下の方法を推進した。

(1)金銅製品の全点についてクリーニングを実施し，点数に確認と形態的特徴に基づいた分類を行う。その後，類例との比較･検討から，当初の形状の復元を試みる。

(2)出土遺物の中心を占める三尊塼仏･塑像をはじめ，先行研究で作成した出土遺物一覧表に金属製品の調査研究成果を付加する。あわせて，既作成分の一覧表の各項目についても，その後の調査研究の成果を反映させ，今後の調査研究の出発点となるデータベースとしての内容の充実を図る。

川原寺裏山遺跡埋納坑出土塼仏（1974 年）

(3)先行研究の推進過程であらたに生じた理化学的な分析・同定問題について，各分野の専門研究者に依頼して出土遺物の特徴を明確にし，川原で裏山遺跡の総合的理解を促進する。具体的には，塼仏・塑像などに付着する顔料の同定と製作当初の塼物や塑像の彩色復元や，埋納坑に共伴した岩石の同定と，比較研究に基づく堂宇の推定調査の実施などである。

４．研究成果

４か年間に及んで実施した本研究課題の成果は，以下の通りである。

(1)川原寺裏山遺跡の埋納坑から出土した一括遺物の全量について，先行研究の成果も含めて，悉皆的にその種類・形態・材質別に分類するとともに，出土数量や保管機関などに関する情報も含めた一覧表を作成した。特に調査当時の事情から分散して保管・展示される資料全点についても掲載したデータベースの作成は，従来は内容の把握が困難であった川原寺裏山遺跡埋納坑出土品の全貌がはじめて明らかになり，今後の調査研究が促進される。

(2)分別した遺物ごとに，全点の記録写真撮影を実施した。この可視化作業により作成した画像データは，埋納坑出土遺物の全体像の把握を容易にするとともに，古代仏教遺物や寺院をはじめとした，今後の調査研究を促進することが期待できる。あわせて，従来は内容の把握が困難であったことから限定的な活用にとどまっていた当該資料について，博物館･美術館の展示資料として活用する利便性が高まることをはじめ，義務教育支援教材の開発・活用など，将来的に多くの分野に寄与することが期待できる。

(3)先行研究を含めて本研究課題の推進で獲得した調査研究成果は 2019 年度，上記の一覧表や画像データ，金属製品や付着物質などの蛍光Ｘ線分析，一括遺物に共伴した石材の岩種同定成果など，理化学・自然科学的分野の研究成果，研究論文などとともに，発掘調査報告書として刊行・公開する。これにより，飛鳥時代の主要寺院の一角を占める川原寺の実態把握に関して直接的に資するのみならず，考古学や古代史学，美術史学などによる飛鳥時代研究を促進する，根幹的な基礎資料の一つとなることが期待できる。

塼仏裏面の文字「阿弥陀」

蓮台（鋳造鍍金）

三鈷杵（鋳造）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計４件）

① 廣岡孝信，「奈良時代のヒツジの造形と日本史上の羊」『奈良県立橿原考古学研究所紀要考古学論攷』第 41 冊，査読無，27～50 頁，2018 年

② 藤井陽輔･米田文孝，「朱金塚古墳南槨出土三角板鋲留短甲の保存修理と再検討」『関西大学博物館紀要』第 22 号，査読無，2016 年，21～37 頁

③ 米田文孝，「石舞台古墳発掘の歴史的意義」『河上邦彦先生古稀記念献呈論文集』全１巻，査読無，2015 年，625～638 頁

④ 廣岡孝信，「飛鳥時代の塼仏製作体制」『河上邦彦先生古稀記念献呈論文集』全１巻，査読無，2015 年，431～452 頁

〔学会発表〕（計５件）

① 米田文孝･井上主税，「古墳研究に使用する機器の過去と現在-ミュオグラフィに期待すること-」，文化遺産の視覚化に関する日本とエジプトの共同ワークショップ(駒澤大学)，2018 年

② 濵慎一･米田文孝･井上主税，「長野県伊那市老松場古墳群第１次調査の概要－新たな前方後円墳の発見か－」，日本考古学協会第 84 回（2018 年度）総会，2018 年

③ 米田文孝･西光慎治，「東アジアからみた飛鳥時代前夜における墓制の変革－奈良県明日香村都塚古墳の事例から－」，日本考古学協会第 82 回（2016 年度）総会，2016 年

④ 廣岡孝信，「東大寺の東大寺式瓦」，第 16 回古代瓦シンポジウム　8 世紀の瓦造り－東大寺式瓦の展開－，奈良文化財研究所平城宮資料館，2016 年

⑤ 市元塁，「川原寺裏山遺跡出土塑像の制作と金属遺物」，九州国立博物館 10 周年記念公開シンポジウム　Ｘ線 CT スキャンを用いた文化財の研究と活用，九州国立博物館，2015 年

〔図書〕（計５件）
① 米田文孝他，奈良県明日香村，『天皇の寺　大官大寺』（DVD ムービー+解説書），2019 年，28 頁（27～28 頁）
② 丹野拓・米田文孝，新泉社，『紀伊国造の実像をさぐる　岩橋千塚古墳群』，2018 年，93 頁
③ 米田文孝他，奈良県明日香村，『飛鳥宮跡』（DVD ムービー+解説書），2017 年，28 頁（27～28 頁）
④ 米田文孝・西光慎治他，明日香村教育委員会・関西大学文学部考古学研究室，『都塚古墳発掘調査報告書－飛鳥の横穴式石室墳の調査－』，2016 年，258 頁（204～206 頁）
⑤ 米田文孝他，奈良県明日香村，『水落遺跡と水時計』（DVD ムービー+解説書），2015 年，28 頁（27～28 頁）

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
http://www2.kansai-u.ac.jp/ariku/

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：市元　塁
ローマ字氏名：ICHIMOTO，Rui
所属研究機関名：独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館
部局名：学芸企画部
職名：主任研究員
研究者番号（8 桁）：40416558

研究分担者氏名：廣岡　孝信
ローマ字氏名：HIROOKA，Takanobu
所属研究機関名：奈良県立橿原考古学研究所
部局名：調査部調査課
職名：指導研究員
研究者番号（8 桁）：00260373

(2)研究協力者
研究協力者氏名：尼子　奈美枝
ローマ字氏名：AMAKO,Namie

研究協力者氏名：西光　慎治
ローマ字氏名：SAIKOU,Shinji

研究協力者氏名：西本　昌弘
ローマ字氏名：NISHIMOTO,Masahiro

研究協力者氏名：長谷　洋一
ローマ字氏名：HASE,Youichi

研究協力者氏名：右島　和夫
ローマ字氏名：MIGISHIMA,Kazuo

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。